

ようこそ齋藤三郎の世界へ

野球は、いつ日本へ伝えられたのか？

石川啄木の歌が、なぜ人々の胸に響くのか？

こんな疑問を五十年以上前に解き明かしていた人。

それが、齋藤三郎(さいとう さぶろう)でした。

ここでは齋藤三郎の野球史研究の代表作をふたつ紹介させていただきます。

『日本野球文献解題』は、明治・大正時代に発行された野球本174冊をわかりやすく解説した野球史研究の専門書です。

『野球文献史話』は、明治期の日本野球を文化史面から幅広くとりあげた画期的な作品で、のちの研究者たちに大きな影響をあたえました。

この二作について、野球殿堂入りした君島一郎は、「今後もしも日本野球の故事探求の志を有する方々があつたら是非にも彼齋藤三郎の二つの作を一読されんことをお勧めする」と書き遺しています。